時期ごとの対策

≪春期～田植前まで≫

①トラクター耕転殺貝

　生息している深さは5cm程度のため、低速走行で耕転（PTOは高速回転）を行って越冬貝を減少させる。

②石灰窒素による殺貝

　石灰窒素を使用して殺貝を行う場合には、水温が15℃以上になってから行う。漏水しないよう代かきし、3～4日程度湛水状態にした後、石灰窒素を10アール当たり20～25Kg施用し、その後m5～6日湛水状態を持続させることにより殺貝を行う。その後は自然落水により水を落とす。

【注意点】

・石灰窒素は魚毒性が強いため、水路等へ流さないよう注意！

・田植前に石灰窒素を使用する場合は、田植え10～14日前に投入する。また、元肥については窒素成分を控え、リン酸・カリを補給する。

≪田植時期の対策≫

①ネット・金網の設置

水口・水尻にネットや金網を設置し、水田への侵入や隣接田・河川への流出を防止する。

②大苗で田植え

水稲苗が柔らかい状態でないと食害できないため、出来るだけ大きく硬い苗を植える。（普通の苗でも田植後3週間程度経過すると苗が硬くなることから殆ど加害されなくなる。）

③田植後の浅水管理

田植後の水管理は水深4㎝以下の浅水状態を保つことで浮力が不足し、貝は自らの殻の重さで極端に移動量が落ちることから加害量も低下する。

④田植後の卵の捕殺

卵塊は直接潰すか、ヘラ等で削いで早い時期に水中に落とすと死滅する。

⑤薬剤による食害防止

田植後、薬剤の散布を行い防除する。基本的には誘引成分で引き寄せ、食毒効果により殺貝や食害抑制効果を得るものとなっている。

薬剤処理については、湛水状態で行うが、浅水にすると貝が水を求め水深の深い部分に集まるため、その状態にしてからスポット散布すると効果的に処理ができる。

※水持ちが悪い圃場において足し水を行う際には、水の流入が強いと誘引と薬の持続性に影響するため出来るだけ少量ずつゆっくり入水を行う。

薬剤名	使用量 （使用回数）	使用時期	処理ポイント
スクミノン	1～4kg/10a （2回以内）	収獲60日前まで	湛水3～5cm処理 止水3～5日　水深を保つ

ジャンボタニシの侵入を阻止しましょう！

用水路をチェック！

◘ 壁面にピンクの塊が付いていた

ピンクの塊はジャンボタニシの卵塊であり、成貝が近くまで来ているという証拠です。なお、卵は水中に落とすと死滅します。

侵入対策その①

水口・水尻に金網（網目：5㎜～20㎜）を張り、附着したジャンボタニシを除去しましょう！

侵入対策その②

水口に網袋（目合い：6㎜～9㎜）を取り付け、ジャンボタニシが入ったら除去しましょう！

侵入対策その③

畦を乗り越えることもあるので、畦際を確認し侵入が見られたら除去しましょう！

土の移動に注意！

◘ 発生地から土が移動してきた

ジャンボタニシは土中に潜り休眠・越冬する性質があり、気付かないうちに土とともに移動してくることがあります。

侵入対策その④

農業用機械に付着した泥は落としましょう！

侵入対策その⑤

既に発生地の土が移動している恐れがある場合は圃場をよく観察し、発生が見られたら速やかに除去しましょう！

注意：寄生虫がいる恐れがあるため、除去する時はゴム手袋等を使用しましょう。

ＪＡ周桑／ＪＡ全農えひめ